

る。

今、日本は興亡の危期に直面して居る、他國の布教より先づ自國の布教を爲したらよいと言ふ者に對しては、私は言ふ「火事は自家から出したか隣りから出たか」と隣りから出た火を自分の家の中で消さうとして居る者を愚者と言ふのである。

平和とか幸福とかと言ふものは自分だけが餘分に分け取りすることの出来るものではない。萬人が平等に公平に分配さる可きものである。それでなかつたなら平和で

## 興亞の基本工作

北京佛教佛學院名譽理事

結 城 瑞 光

我邦は神代も建國以來も矯慢邪惡な惡人は討伐しても領土的野心や無謀の權力行使をやつたことがない、即ち鬭爭のための戰爭に皇軍が動いたことは一度もない、悉

なくて鬭爭であり、幸福でなくて不幸である。

佛陀釋尊を見る世界人の眼は等しく尊敬と信賴に輝いて居るが、聖者日蓮を見る眼は或る者は猜疑に満ちて居るのは何故か。後人が聖者をして小さい器の中に閉ぢ込めたからではないか。

私は日本國の眞の隆昌を望むが故、外魔を挫く海外布教は最大の急務であり、之を粗かにする事は立正安國の祖志を無にする事であると確信する。

くが公義正道の擁護建設のために錦旗が動くのであつた今次事變も此の軌道を出でないのである。

聖戰と謳はれるのは厥の爲である、結論は日本本來の

大使命遂行に過ぎない、従つて飽くまでも破邪顯正の堂々たる武力を行使する大思想戦であると思ふ、武力で捷ち思想で從順ならしめねばならぬ、其の思想とは大乘的な平等主義に立脚した圓融思想であらねばならない、自分はこの思想の普及徹底を東亞全体の基本思想とするところが今日の重大な國策否東亞諸國が一丸となつて斯の思想の實現に努力しなければならぬと考へてゐる。

大乘佛教殊に法華一乘の思想は日蓮上人に依つて唱導實踐されてゐるのであるから、之を受け繼いで現代的に解釋もし、實行もしなければならぬ、餘りにも現代の僧侶が自己の職能を忘失して世俗の卑風に染まんことを希望する形は洵に唾棄すべき風習と云はねばならない。寧ろ消極的であるが支那僧侶に眞面目の者が多い、彼等に優勝する日本の僧侶が折角機縁圓熟する此際、自己の立場に目覺めて興亞聖業建設の先頭に立つて頂かねばならない。

要するに日蓮門下の僧侶が眼界を廣く、襟度を大きく

興亞の大事業は自分でなければならぬといふ氣分と事業を始めて貰いたいことを念願するものである。

(昭和一五、一、一)

## 附記

結城瑞光師は、昭和十二年十月から十四年九月まで滿二ヶ年從軍布教師として中支に活躍されたことは衆知のことである。師が企案をした對支宗教進出の機關として作られた、中支宗教大同聯盟は總裁近衛公爵を戴いて、着々日本全公認宗教の進出を促進し現在幾多の宗教報國をなしてゐる、又師の幹旋によつて宗門に囑された上海の身延會館は、宗門の對支事業の本部として外山寛朗君が派遣された、尙結城師が昨年四月再渡支の際創立された世界佛教卅字會は華人千名の會員を獲て、着々佛教事業を行つてゐる由である、我等が母校祖山學院の出身たる師の大陸宗教開拓に活躍されて斯くの如き成果を産んだことは、欣懷に堪へない、切に師の奮闘を望む次第である。(記者)

